

Lingua Fardiasie

Unit 0

ファルディアス語入門

Task 1

この「ファルディアス語入門」では、人工言語ファルディアス語について解説します。具体的には、特別なイディオムや、複雑すぎない文章を、単語帳と変化表を見ながら作れるようになってもらいたいと考えています。

多くの変化を無理して覚える必要はありません。基本的なものだけ軽く暗記して、残りは随時参照しながら読み解いたり文章を書けば問題ありません。発音についても、発音練習がしにくい環境で行う必要はありません。学習者の環境に合わせて、それぞれ自分なりにファルディアス語を覚えてください。

Unit 1

ファルディアス語の概要

Task 1

ファルディアス語は、異世界で使われていることを想定して作られた言語です。音は大まかにはヨーロッパで使われている言語を大体参考にしています。文字は初学者に分かりやすいようにラテン文字(普通のアルファベット)にしました。発音は、一部日本人には慣れないものもありますが大体は規則的で、英語のように変化しておらず、一部の変わった発音のみを覚えれば読めます。特に母音は日本人のローマ字読みで完全に問題ありません。

日本語のような格助詞(～が、～の、など)や、英語のように語順で語の意味を決める事はありません。名詞の語尾に接尾辞をつけて(格変化させて)、語の役割を規定します。従って、文字についている接尾辞で役割が理解できるため語順が自由です。よって母語の語順と同じように単語を並べられるため、文章も作りやすいです。

単語については、基本的にほとんど新しく作られています。一部、ファルディアス世界にないと思われる文化や科学技術などについては、地球の言葉(ラテン語、ギリシャ語、英語、中国語、インドネシア語、日本語など)から借用しているものもあります。

また注意すべき点としては、動詞の語尾が主語によって変化することです。ヨーロッパ言語では多く見られるものですが、日本人には馴染みがないため、注意が必要です。

この入門書では、ファルディアス語の文または単語は、手書き風フォントで表示します。これを使ってその他の言語のアルファベットと区別してください。

Unit 2

文字と発音

Task 1

文字は英語のアルファベットと変わりません。よって入力には普段使っているキーボードが使用できます。

文字を一覧で示します。

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z

Task 2

母音 → 全て、日本語の音より明るく、強く、はっきり。

[a] a

[e] e

[o] o

[i] i

[u] u

子音

[p] p → 息が通る発音。有気音にすること。鋭く発音する。

[b] b → 息をあまり通さず発音する。無気音でよい。

[t] t → 日本語、アメリカ英語の音より強く。

[d] d → 日本語発音より鋭く。

[k] k → 基本的に消えない。きちんと発音する事。

[g] g → 決して鼻濁音にならないこと。

[m] m → 語尾などで消えると理解できなくなる場合、eやuのような曖昧母音を入れて分かりやすくする。

[n] n → mに同じ。

[r] または [r] r → 巻き舌だが、発声できない場合は日本語のラ行でもよい。

[l] l → 英語のlに同じ。

[f] f → 英語のfと同じ。必ず上の歯を下唇に添えること。

[v] v → fの有声音。

[s] s → 日本語のサ行より鋭く発音する事。

[z] z → sに同じ。

[ʃ] c → tsやkと混同しないように。

[ʒ] j → 日本語や英語と違い、舌を口の中のどこにも触れずに発声する。

[j] y → 単体ではiとほとんど同じ発音。

[w] w → きちんと口をすぼめること。

[tʃ] q → kなどと混同しない事。

[ɣ] x → 英語のg、日本語のガ行を出す時に使う喉の奥を、うがいをするときのよう
に震わせる音。(有声軟口蓋摩擦音と呼ばれる)

[h] h → 使われない。外来語を訳す際もこの音は外す。

Unit 3

慣用表現、日常のあいさつ

文章を上手く作れなくても、慣用表現や挨拶だけで少しは意思疎通が出来ます。文法などを覚える前に、簡単な慣用表現をいくつか覚えましょう。

Task 1

・挨拶

iva = hi, hello, how are you? こんにちは

moan = good morning, morning! おはよう

sakta = good evening こんにちは

mites = good night おやすみなさい (夜の別れの挨拶に用いるわけではない。実際に眠ろうとするときに使う。)

veeje = see you, goodbye, bye さようなら

ancent = nice to meet you はじめまして、よろしくおねがいします

enzik = welcome ようこそ

yuumi = thanks, thank you ありがとう

eyumia = you're welcome, my pleasure どういたしまして (*yuumi* と言われたら極力 *eyumia* で返すべき。)

Task 2

・応答

ei = ya, yes はい

aya = no いいえ

nyao = so-so まあまあ、微妙

Task 3

・その他

empainz? = what happend? どうした?

oo = ah ああ

aa = oh おお

uven = great!, good! すばらしい!

eps = i see, understood 分かった

cefi? = really? 本当?

vaks = i think so too 同意します

saat = i don't think so 同意しません

Unit 4

動詞の人称変化、名詞の格変化

Task 1

動詞は、主語によって形が変化します。変化形は、「一人称男性形」「一人称女性形」「二人称男性形」「二人称女性形」「全人称形」の五つがあります。

動詞は全て、-eで終わるので、変化はこれを元に行います。

	男性	女性	中性(無性)
一人称	-eso	-esa	-e
二人称	-eto	-eta	-e
三人称	-e	-e	-e

この表を見て分かるように、全人称形というのは-eが付くものを指します。具体的には、一人称男性形・女性形、二人称男性形・女性形以外の主語です。男性と女性というのは人間のみに適用されるので、動物や物を擬人化して主語にしても、男性形女性形は使いません。

なお、動詞の最後のeは外してからもう一回この語尾を付けてください。従って、全人称形ではeを外してeをまたつけるため、同じ形になります。

さらに動詞の形で主語が分かるため、一人称、二人称が主語となる文章では主語を外すことができます。これは英語と大きく異なる点ですね。また日本語とも違います。日本語では文脈で理解するため主語が不要ですが、これは外国人や初心者には非常に分かりにくいです。ファルディアス語では動詞に明記されているため外せるのです。よって、三人称の場合は主語を省略する事は基本的に出来ません。

Task 2

名詞は格変化します。日本語で言う、「～が」とか「～を」とか「～の」見たいなもの(格助詞といいます)が付くのと同じです。これが語の役割(目的語や主語など)を表すため、語順は殆ど自由で構いません。日本語でも倒置文が作れますよね。「行った。私は学校へ。」のようなものです。これは日本語では強調として使われますが、ファルディアス語ではごく一般的に使われます。というよりも、英語のような決まった語順が無いので、語順が様々になるのは当たり前ですね。推奨される形としては、重要な語を前に出すというものです。初めて学ぶ方々には、母語と同じような順番で語を並べるのが簡単だと思います。

格変化は非常に多く、厄介です。ので、太字で書いたものだけを覚えて、残りは必要な場合に参照するのが良いでしょう。役割を右に示しますので、同時に覚えてください。

格変化表は、Task3として提示します。

Task 3

主格	-i	主語になる時。
対格	-ie	目的語(直接目的語)(~を)になる時。
与格	-if	間接目的語(~に)になる時。
主補格	-in	主格の同格として補語になる時。 (英語で言う、I am studentのstudent)
対補格	-ik	対格の同格として補語になる時。 (英語で言う、I made him actor のactor)
属格	-ie	名詞を修飾する形として。
前置格	-it	前置詞と組み合わせて使われる時。
様格	-ag	時間を表す時。(~に)
処格	-os	場所を表す時。(~で)
前格	-an	(時間的に)「~より前」を表す時。
後格	-ad	(時間的に)「~より後」を表す時。
始格	-as	(時間的に)「~から(継続して)」を表す時。
終格	-aj	(時間的に)「~まで(継続して)」を表す時。
間格	-af	(時間的に)「~の間」を表す時。
発格	-on	(場所的に)「~から」を表す時。
着格	-ot	(場所的に)「~から」を表す時。
奪格	-ep	物が変化したりする時の変化前をあらわす。(~から)
変格	-ev	物が変化したりする時の変化前をあらわす。(~から)
具格	-ug	方法、手段を表す。
同格	-us	前の単語と同等として説明する時。(英語で言うasのような働き)

主格から処格までは、できれば覚えたほうが良いです。それ以外は、この表を参照すれば充分です。なお、実際に名詞に付加する場合は、名詞とこの接尾辞の間に'(アポストロフィ)を入れてください。

Unit 5

動詞のある文

Task 1

ファルディアス語の文章のほとんどは、動詞がある文章です。それ以外には詩的なもの
だとか、口語で使われるものとか、慣用表現があります。

[1] *Gesa.*

=I go. =私は行く。

主語が一人称の場合、動詞の人称変化でそれを表せるため、主語自体は省略される
事がほとんどです。

ge ; 動詞, 一般動詞; [VS]{動作} 行く, 向かう, 訪れる

[2] *Zegeto.*

=You come. =あなたは来る。

主語が二人称の場合も、同じように省略できます。

zege ; 動詞, 一般動詞; [VS]{動作} 来る, 来訪する

[3] *Ese jors'i.*

=He leaves(departs). =彼は出発する。

主語が三人称ですから、動詞は全人称形です。よって主語は明示する必要がありま
す。

また、語順は自由ですので、*Jors'i ese.* という風にも書くことも出来ます。

ese ; 動詞, 一般動詞; [VS]{動作} 出発する, 発つ

jors ; 名詞, 代; 彼

[4] *Attesa cefam'is.*

=I eat bread. =私はパンを食べる。

目的語は対格で表します。

atte ; 動詞, 一般動詞; [VSO]{動作, 状態} 食べる, 食べている

cefam ; 名詞, 食; パン

[5] Dometa cefam'is les'if.

=You give me bread. =あなたは私にパンをくれる。

間接目的語は与格で表します。語順は自由なので、以下のような書き換えられます。

Dometa les'if cefam'is.

Cefam'is dometa les'if.

Les'if cefam'is dometa.

dome; 動詞, 一般動詞; [VS0d0i]{動作} 与える, あげる

les; 名詞, 代; 私, 俺, 僕, 自分

[6] Estesa less'in.

=I am a student. =私は学生である。

主語と同格(I = student)としての補語は、主補格になります。

este; 動詞, 一般動詞; [VSC]{状態} である, だ

less; 名詞, 人; 学生, 生徒

[7] Este jars'i less'in.

=She is a student. =彼女は学生である。

英語で言うBe動詞の役割を果たす *este* は、原形のまま使われている場合にはそれを省略できる。以下のようなになる。

Jars'i less'in.

jars; 名詞, 代; 彼女

[8] Wu'is eleso.

=I love you. =あなたが好きだ。

ele; 動詞, 一般動詞; [VSO]{状態} 好き, 好む, 気に入る

wu; 名詞, 代; あなた, 君

Unit 6

形容詞と名詞の属格

Task 1

名詞を修飾するものは、形容詞、名詞の属格、動詞の修飾形の3つです。このうち動詞の修飾形については、少し難しいので後で説明します。

形容詞と名詞の属格は、それぞれ修飾される名詞の直後に置いて修飾します。日本語や英語のように前から修飾する事は出来ません。複数の修飾語(形容詞や名詞の属格)がある場合は、それぞれ並べて修飾します。

語の並べ方には注意してください。「太った彼の犬」というように修飾したい時、犬が太っているのであれば語は「犬・太った・彼の」という風におきます。彼が太っている場合は、「犬・彼の・太った」という風にすれば分かりやすいでしょう。特に制限があるわけではありませんが、文脈を考えて形容詞や名詞を置くようにしてください。

また、形容詞は原形に *ie* を付加して修飾します。これをつけないと形容詞の名詞形という扱いになりますので気をつけてください。名詞の属格は前に書いたように *'ie* という形ですが、形容詞の *ie* にはアポストロフィが付きません。これ入れるか入れないかで文脈が変わるということは無いので間違っても問題は無いのですが、一応頭に入れて置いてください。

[9] *Ank pankie.*

=A cute cat. =かわいい猫。

ank; 名詞, 自; 猫

pank; 形容詞; 可愛い, かわいい, かわいらしい

[10] *Tus'i ank'in jars'ie.*

=It is her cat. =それは彼女の猫だ。

este が存在しますが、全人称形のため省略されています。

tus; 名詞, 代; それ

また、主語と形容詞を *este* で繋げて、「～は～だ」という文を作ることにも出来ます。

[11] *Ank'i pankie.*

=Cats are cute. =猫はかわいい。

「かわいい猫」とは、主語が存在するか(*i* が付いた語があるか)で判断します。

この *pankie* の位置には、名詞の属格も勿論置けます。「その猫は彼のだ」など。

Unit 7

過去形・未来形、その他時制変化

Task 1

ファルディアス語では、動詞の人称変化形(全人称形を含む)の後に時制接尾辞をつけることで時制を現します。英語で言うedと似ていますが、未来形や完了形・進行形もこれで表す点で少し違いますね。

時制接尾辞は二種類あります。時制を現すもの、相を表すものです。相とは、英語で言う完了形や進行形のことです。それらを順番に語尾にくっつけます。くっつける時には、動詞の人称変化形と時制接尾辞の間に'(アポストロフィ)を入れます。

例えば、「私は歩いている」というのはこうなります。

Iresa'ne.

1 単語で表されているようで少し不思議ですね。しかしこの「文」には主語も時制も含まれています。"sa"が人称変化であることはすでに理解していると思います。これは、一人称女性形を現す語尾です。n と e は、分けられます、n は現在を表し、e は進行形を現します。このようにくっつけて表現します。これについては以下の表を見てください。

第一接尾辞	時間を表す
n	現在、通時
s	過去
m	未来

第二接尾辞	相を表す
o	普通形
e	進行形
a	完了形
i	直近形

完了形は、すでに終わったことを指します。英語のように継続を表しません。

直近形は、今すぐにやろうとしていること、今まさに終わったことを指します。英語の副詞でsoonや、完了形の時のjustと似たような働きを時制接尾辞で行っています。

また、一般的に、普通形の o は省略します。さらに現在の n も、進行形などが無い場合は省略します。通時として強調する場合、省略しません。

Task 2

例文を読んで使い方を確認してください。

[12] Lebe'se Jors'i Rankasies'is.

=He was studying English. =彼は英語を勉強していた。

固有名詞の先頭は英語と同じように大文字で表します。

lebe; 動詞, 一般動詞; [VSO]{動作, 状態} 学ぶ, 勉強する, 習う, 身につける

Rankasies; 名詞, 固; 英語

[13] Atteso'sa.

=I have eaten. =食べ終えた。

[14] Jars'i ge'mi.

=She will go soon. =彼女はすぐに行く。

[15] Ne'si jors'i.

=He has just written. =彼はちょうど今書いた。

ne; 動詞, 一般動詞; [VSO]{動作} 書く

Unit 8

否定文・受動文

Task 1

否定文、受動文では、時制接尾辞の後にさらに接尾辞を繋げて表します。

否定	s
受動	k
否定受動	sk

否定と受動は、skの順番で重ね合わせます。また、否定文・受動文を作る際には、時制接尾辞の普通形や現在を省略できません。受動態での動作主(主語とは違います。英語で言うbyで示される意味上の主語です)は、ve+前置格の名詞で表されます。

例文を読んで、確認してください。

[16] Zegeto'nos.

=You don't come. =あなたは来ない。

[17] Atte'sak cefam'i ve ank'it.

=Bread was eaten by a cat. =パンは猫に食べられた。

[18] Eleto'mosk ve jars'it.

=You will not be liked by her. =君は彼女には好かれない。

Task 2

部分否定をするには、否定する単語または句を ne-...-ta で囲みます。それぞれ-(ハイフン)を必ず入れてください。

[19] Lebe's jors'i ne-Rankasies'is-ta.

=彼は英語は勉強しなかった

[20] Atte'sak cefam'i ne-ve ank'it jors'ie-ta.

=Bread was not eaten by his cat. =パンは彼の猫には食べられなかった。

語が続いていても、それを纏めて囲んで否定します。

Unit 9

助動詞の含まれた文

Task 1

ファルディアス語では、表現を豊かにするため、助動詞が使われます。助動詞は常に動詞の直後に置かれます。

語	意味	否定した場合
yos	～してよい、許可	～しなくてよい
kan	～できる、可能	～できない
sen	～すべき、推奨	～すべきでない
mon	～しなければならない、義務	～してはならない
ses	～しろ、命令	～するな
wan	～したい、願望	～したくない
wes	～しようと思う、意思	～したいと思わない
res	～だろう、推測	～ではないだろう
fres	～かもしれない、推定	～ではないかもしれない
for	～するものだ、～している、習慣	～する習慣はない
wara	(笑)、嘲笑	(否定形には出来ない)
ent	～しよう、～しましょう、勧誘	～しないようにしましょう
arou	～したことがある、経験	～したことがない
niji	～しましょう、提案	～しないようにしたらどう ですか
orja	～してください、依頼、丁寧命令	～しないでください
yeiz	～させる、使役	～させない

Unit 10

副詞の使い方

Task 1

副詞には連用用法と連形容詞用法と特殊用法があります。連形容詞用法は、「とても大きな」などと言うときの「とても」です。特殊用法は、それぞれの単語によって使い方が定められています。今回ここでは連用用法について解説します。連用用法とは、動詞の後ろ(助動詞がある場合、さらにその後ろ)について動詞を修飾する使い方です。ファルディアス語の語順は基本的に自由ですが、連用用法の副詞は必ず動詞の後、または助動詞の後におかなければなりません。詳しくは例文を見てください。

[21] *Attesa et cefam'is.*

=I often eat bread. =私はたまにパンを食べる。

Unit 11

動詞の名詞形

Task 1

動詞には、人称変化形のほかに、名詞形・修飾形・受動修飾形があります。

名詞形	<i>e't</i>
修飾形	<i>e'ri</i>
受動修飾形	<i>e'zi</i>

人称変化と同じように、原形の *e* を一旦外してからさらに *e't* などをつけます。

修飾形と受動修飾形については次のユニットで説明します。

名詞形は、英語で言う動名詞のようなものです。「～すること」という意味で、主語にも目的語にも出来ます。なお、名詞形は格変化するので、*t* の後にさらに格変化語尾を付加します。また、動詞に目的語や主語が付いたりする名詞形部分を閉じる時には、"*den*" を用います。

[22] *Atte't'i este zekie.*

=Eating is enjoyable. =食べる事は楽しい。

zek; 形容詞; 楽しい, 愉快的な

[23] *Elesa Atte't'is cefam'is den.*

=I like eating. =私は食べる事が好きだ。

Unit 12

動詞の修飾形

Task 1

動詞の修飾形とは、英語で言う関係代名詞のようなものです。名詞の後ろに修飾形または受動修飾形を置いて、名詞を説明します。

修飾形と受動修飾形の違いは、動詞の動作の対象者が被修飾語であるかないかです。動詞の目的語が被修飾語の場合にのみ、受動修飾形を使います。受動修飾形を使う時、主語は受動文と同じように、*ve*+名詞の前置詞であらわす。

修飾形のあとに主語などが付く場合は、名詞形と同じく、*den* を使って閉じます。

[24] *Jors'i este's sardi'in ne'ri lis'it den.*

=He is the boy writing a letter. =彼は手紙を書いている少年だ。

ne; 動詞, 一般動詞; [VSO]{動作} 書く

sardi; 名詞, 人; 少年, 男の子

lis; 名詞, 具; 手紙

[25] *Jors'i este sardi'in atede'zi ve lus'it den.*

=He is the boy waited for by me. =彼は私が待っている少年だ。

修飾形と受動修飾形では時制の一致のようなものは起こりません。そもそも時制が存在しません。時制を全体と変えたい場合、一般には日時を表す語（「今日」など）を書いて表します。

Unit 13

接続詞の用法

Task 1

ファルディアス語にも、英語と同じように接続詞が存在します。英語で言うandのように同じ働きを持つ語・句・節を繋げるものと、becauseのように従属節を繋げるものがあります。一覧として提示するので、必要に応じて参照してください。

等位接続詞

<i>yun</i>	順接
<i>ban</i>	逆説
<i>oe</i>	選択
<i>sede</i>	並立

順接の *yun* は英語で言うandと同じだが、英語のように"~,~,~ *yun* ~"という形には出来ない。全て *yun* を置くか、または,,(コンマ二つ)で省略する。また逆説の *ban* は,',(コンマ、アポストロフィ、コンマ)で省略する。

選択の *oe* は、選択の余地を残された両方を選ぶことも、片方を選ぶことも出来る。英語のorとは違う感覚である。

従属接続詞

<i>vonze</i>	理由を示す
<i>jenze</i>	結果を示す
<i>denze</i>	時を表す
<i>nesanze</i>	~の前 (時間的)
<i>rexanze</i>	~の後 (時間的)
<i>wize</i>	~に (場所)
<i>neze</i>	~から
<i>ronze</i>	~まで
<i>fenze</i>	~する間
<i>bize</i>	方法・手段を表す
<i>enze</i>	もし~なら、仮定

Unit 14

数詞の使い方

Task 1

ファルディアス語の数字は、例えば4 3 2なら「よん・さん・に」というように、また英語で表すなら"four, three, two"というように、数字をただ読んでいただけます。

数字をファルディアス語でつづるときには、それぞれをハイフンで繋いでください。

0 *nois*

1 *an*

2 *ne*

3 *ri*

4 *kat*

5 *wis*

6 *zi*

7 *van*

8 *ai*

9 *nis*

00 *ous*

000 *pis*

0000 *sis*

432 *kat-ri-ne*

20 *ne-nois*

2012 *ne-nois-an-ne*

700098 *van-pis-nis-ai*

Unit 15

最後に

Task 1

これで、単語さえ調べながらであれば、一通りの文章が作れるようになったはずですが。実際、単語を覚えていくのは難しいですし、あまり意味もないかと思います。基本的には、文章を書くときや読むときには、単語帳を参照しながらで問題ありません。また文法についても、忘れた所は基本的にこの入門書を見ながら書けば大丈夫なはずですが。

単語については、新規単語がどんどん増えていくと思います。その都度できるだけ新しい単語帳を参照してください。また、ネット上に文法と単語がそれぞれ公開されていますので、必要に応じて見てみてください。

文法 → <http://www48.atwiki.jp/lyuca-fardias/>

単語 → <http://www34.atwiki.jp/volb-fardiasie/>